

「国内学会・研究集会」参加報告書

2009年 6月 3日

専攻・講座名 情報科学専攻 自然情報学講座
学年 博士前期過程 1回生
氏名 井上 陽子

参加学会：日本気象学会 2009 年春季大会

開催場所：つくば国際会議場

・ 発表題目

リモートセンシングデータと直接サンプリングデータを用いた、黄砂観測時におけるエアロゾルの特徴

・ 発表内容

私は今回上記の題目でポスター発表に参加しました。

東アジア域における春期の代表的なエアロゾルとして挙げられる黄砂は、大気環境ならびに放射収支に大きな影響を与えています。最近では、中国大都市での大気汚染が問題となっており、その上空を通過する黄砂粒子にも汚染物質が付着している例が報告されています。そこで本研究では地上設置型リモートセンシングデータと直接サンプリングデータを用いて黄砂間即時におけるエアロゾルの特徴を調べました。

その結果、エアロゾル量と粒子数が多く、高度が低い場合には地上の目視観測において黄砂と判断されやすく、逆に、エアロゾル量が多く大粒子で最も黄砂らしい特徴を持っていても、粒子数が少なく、高度が高い場合は地上の目視観測で黄砂と判断されにくいという事が明らかになりました。

・ 得られた成果と今後の展望

今回の発表では、黄砂観測時には、黄砂以外のエアロゾルも存在しており、それらがどのような振る舞いをしているのかということに聴衆の方の関心が多く集まりました。特に、黄砂と汚染物質粒子、ススなどの混合について貴重な意見をいただく事ができました。

また、私は今回初めて学会でポスター発表を行いました。発表の前は、聴衆の方からの質問に的確に対応できるか不安でしたが、実際にその時になると、冷静に対応する事ができ、積極的に意見を交換することができました。

更に、私自身の研究の発表だけでなく、聴講した発表は、どれも興味深いものばかりであり、特に、近年は、黄砂だけでなく、ススが汚染物質と結びついたり、水を含んだりしている観測例が増えているという報告に非常に関心を持ちました。

今後は今回の学会で頂いた意見などを生かし、エアロゾルの研究を発展させていこうと思います。

最後に、組織的な大学院教育改革推進プログラム「理系の実践型女性科学者育成」より資金補助をして頂き、このような貴重な経験を積むことができたことを、この場を借りてお礼申し上げます。